

# WORKS

## Empower&Energize

No121  
2009/5

名東福祉会は名古屋市と日進市を中心に  
知的障害者を中心とする福祉活動を行っています

### 「上ノ山ホーム」

### の開所に寄せて

理事長 加藤 久和

#### ■はじめに

ケアホームが開所しました。名称は上ノ山ホームです。地域の浅井様からご寄贈していただいた土地に、国庫補助と会員の寄付金をもとに名東福祉会が建設したものです。ケアホームの建設計画は入所施設であるレジデンス日進とともにスタートしており、たいへん長い時間がかかりましたことをはじめにお詫び申し上げます。このホームは、皆様のご協力がなければ建設すらできなかつたもので、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

この土地はこれまで名東福祉会の農園や行動療育センター「たけのこの家」として利用されてきました。この土地には毎日、多くの人たちが入りし、建設前から地域の人たちに自然に、名東福祉会はゆつたりと溶け込んでいくことができました。その間、地域で名東福祉会の活動を支えてくださった方に感謝申し上げます。

#### ■福祉会としての意義

上ノ山ホームでは9名の方が「共同生活」を行います。

名東福祉会の歴史は1981年に最初の通所施設ができて以来、今年で28年になります。知的障害者の方の場合、就労や能力開発によって福祉的・教育的な支援が必要なくなる人と、継続的に支援が必要な人との割合を考えますと、ほとんどの人がなんらかの支援を必要とする人生を送ります。法人設立以来、30年の年月が流れた



ということ、それだけ本人も親も家族も高齢になったことを意味します。家族の介護によって夜間の生活を支えることができず、夜間の生活を支えることができない間はよいとしても、家族の高齢化が毎年進んでいる現状を考えると、夜間の支援システムを構築することは喫緊の課題となっていました。上ノ山ホームができることによって少しでも本人と家族の安心と安全を確保し、利用者が充実した日々が送れるよう、鋭意努力してまいりたいと考えております。

#### ■ケアホームの仕事

ケアホームは障害者自立支援法によって創設された施設です。ケアホームは障害がある人の生活拠点です。もちろん支援員がいて、様々な生活上の支援を行ったり、日中の活動との橋渡しをしたりします。従来の入所施設の場合、仕組みとしては通所施設をいったんやめて入所施設に異動しなければならぬという問題がありました。ケアホームの場合、これまで利用してきた日中のサービスを継続利用することができず。ケアホームはその点、画期的に利用者の要望にお応えできる制度であると思っています。

制度的にはグループホームと入所施設の中間の障害がある人を対象としています。

私はケアホームを誰でも利用できる施設にするよう福祉会としても、家族会としても努力していく必要を感じています。障害の区分によって利用できる施設が異なったり、障害の程度の平均値によって報酬が変化することは適切ではありません。現在のところ、グループホーム、ケアホーム、入所施設の中で自由に支援サービスを選択したり、利用場所を変えたりすることはできないような制度になっていますが、上ノ山ホームのスタートにあたり、こうした人為的な「壁」を取り払うよう、努力していくべきだと考えています。そのためには、職員、家族会が結束し、それぞれのサービスの利点や欠点を相互に補い合うような組織力が求められます。

本人にとって最適な人生の送り方を選び、キャンパスに絵を描くように人生を彩っていくこと―これこそが、障害者自らの根本精神です。そのためには日中生活―夜間生活―家族との間の連携を密にし、本人のニーズに合わせて限られた資源をみんなで有効利用していくことが、上ノ山ホームの成功を左右します。

## ■施設間の連携

上ノ山ホームが成功するためには、レジデンス日進や通所施設、相談支援センター

と連携して本人のライフプランを構築していくことができるような人的なネットワークを構築することも重要です。言い換えれば、決して固定化された職員と固定的な利用者メンバーだけのホームにならないように、みんなで応援していただくことが肝心です。

一方、レジデンス日進にはこれまで以上に最後の砦としての役割や、夜間支援の調整やバックアップなど重要な役割が求められます。私どもは入所施設利用者を解体して次第にケアホームへ移行していくようなことは考えていません。むしろ、ケアホームができればできるほど、総合的なサービスを縦横に展開できる入所施設が重要になると考えています。もちろん、措置の時代の入所施設が必要といつていっているのではなく、レジデンス日進のようにユニット化されていて、ケアホームと実質的に変わらない施設、それでいて、緊急時に対応する能力、職員の変動に強い機能、高い専門性をもった職員を養育するなど、多方面のポテンシャルを持った入所施設が必要です。ケアホームやグループホームだけではなく、地域に家族と暮している人たちをも強力にサポートできるように、これからの入所施設のあるべき方向性を模索していくべきだと思います。

利用者にとりましては、これまで以上に満足していただくためには、本人のニーズの把握や日中プログラム、給食サービスなど質の高いサービスプログラムの開発力が必要となります。そのために、利用者情報の共有化、継続的改善運動や職員研修、事故やリスクを未然に防ぐヒヤリハット運動などこれまで蓄積してきた名東福祉会の組織力を磨いていきたいと考えています。また、すぐれた実践に対しては積極的に事例発表しあう「ベストプラクティス運動」についても上ノ山ホームの設立を機会に、実践してまいりたいと考えています。

## ■今後の展望

私どもとしては、上ノ山ホームの設置は、24時間体制の充実に向けたほんのスタートだと考えています。現在、名東福祉会には日中サービスを利用している成人が160名いらっしゃいますが、そのうち、50%を超える利用者―80名の人々が24時間体制に移行しても待機者が出ないよう、夜間支援の定員を増やして行きたいと思っています。具体的には、レジデンス日進がシヨートステイを含んで47名、上ノ山ホームが9名、天白ホームが4名ですから後20名ほど不足しています。



本人の好みや地理的なニーズ、空間の合いや使い勝手、支援員の個性、本人や共同生活をする人たちの相性によって、利用のしやすさや生活の魅力は変わります。男性と女性の夜間支援に対するニーズの差があります。今後は男性用ケアホーム、女性用ケアホームをそれぞれ1箇所ずつ設置していきたいと考えています。

上の山の土地に建設できるホームは男性用、女性用の2箇所が限界です。当面の目標は達成される日は近いとはいえず、いずれ

他の地でケアホームを建設することが望まれます。土地の寄贈をいただくことはまさに有難いことであり、新しい土地の確保については、計画的かつ戦略的に準備しなければなりません。その際、土地の賃貸や土地を貸す人に対する優遇税制なども研究していく必要があると思います。またホーム

の運営やメンテナンスにも費用がかかります。名東福祉社会員が相互に少しずつ負担しあって建設資金を捻出していくことも避けられないでしょう。職員、家族会が結束して、ケアホームを含めた名東福祉社会全体の支援内容の質のたゆまぬ向上をこれまで以上に求めていかなければならないと思います。

そのためには、現在利用しているすべての施設は、その利用者だけのものではないということを見なが強く自覚する必要があると感じています。このホームは自分の家であると思うと同時に、将来、後から来る人たちのものでもあるという気持ちを皆が持つこと、そうした過去と未来の利用者も含めた共同意識がケアホーム利用にあたって必要なのだと思います。

夜間生活が充実するためには、日中生活が充実する必要があります。毎日に喜んでいただけるような仕事をしたり、太

陽を浴びながら体を動かしたり、おいしく健康的な食事をし、時には遠くに出かけてレジャーを楽しむ。そうした生活を信頼できる支援者と気のおけない友人とともに送ることは、ケアホームという住まいをより楽しく充実したものにします。

人生(LIFE)は生活(LIVING)と物語(STORY)で成り立っています。生活の基盤を築くことはまず第一に行わなければならないのですが、それだけで味わいのある人生は送れません。そこには人が出会い、苦しみ、悩み、励ましあうことによって生まれる物語が必要です。その意味では上ノ山ケアホームは物語の始まりともいえます。家族が訪れ、ボランティアが訪れ、地域の人の笑いとともに毎日笑ったり泣いたりできそれぞれの人がそれぞれの物語を積み上げていくことができるよう、皆様の応援をお願いいたします。

## 奈々枝日記

(2009年4月7日)

3月29日日曜日、コロニー養楽荘にでかけました。名古屋市内より3度は温度が低いと言われているコロニー山の養楽荘の

玄関の前に大木の桜が見事に満開となつて、私を迎えてくれました。「すごいなあ」を連発して思わず携帯電話で写真を撮ってしまいました。けれどみんなに見せることができませぬ。入院中に娘が新しい携帯電話に変えてしまったので複雑な操作はできません。実に見事な桜をお見せできなくてごめんなさい。

長男が養楽荘に入れていただいてももう38年になります。毎年、毎年いろいろな思いを胸にいだきながら桜の花の推移をみながら、また、私たち親子の来し方に想いを重ね、感無量です。この今年の桜の花を最後に私たち親子は地域の日進で住まうこととなります。レジデンス日進の前の路にも桜の大木が6本もあり、小学校の入学式の日にはいつもハラハラと桜が吹雪いて着飾った親子を祝福します。養楽荘の桜は何もいりませんが、私たち親子を長い間見守り続け、そして大変御世話になった職員さんたちを励まし続けてくれました。

養楽荘、ありがとう。職員さんほんとうに、ほんとうに、ほんとうにありがとう。

## あとがき

昨秋からお休みしていた『WORKS』が、再スタートです。今号は、上ノ山ホームの開所に合わせて、今後のナイトケアのあり方について考える内容となっています。

『WORKS』の使命は、当法人の事業の紹介をすることのみではありません。我々の取り組みを切り口にして、障害者福祉のあり方を考えたり、社会全体の中での福祉の位置づけを問いかけて、「少し先」をのぞき見てみようと思ってみることです。

「物語」は続きます。誰もが立ち止まったり、振り返ったりすることもありますが、それはやはり、先に続く「物語」を紡いでいくためでしょう。上ノ山ホームで新たな生活をスタートさせる方々をはじめ、様々な支援を必要とする方々の「少し先の生活」を考える契機となるような機関誌でありたいと思います(小)。

## ご寄付ありがとうございます

平成20年9月26日～平成21年3月31日

### ◆メイトウ・ワークス

川口功様 待鳥照雄様 大内伸元様 近藤正俊様 金澤厚様

### ◆天白ワークス

平松光男様 片野篤子様 杉本四三男様 長谷川聡様 石村里美様 谷本幾史様  
水谷義孝様 鈴木卓孝様 篠田俊男様 永宮賢治様 奥村與志明様 阪野しづか様  
伊藤鉦一様

### ◆はまなす

佐知輝敏様 牧公三様 加島美奈様 今津俊典様 後藤良昭様 山田幸造様

### ◆レジデンス日進

レジデンス日進家族会様 藤本義久様 伊藤時義様 山田一夫様 伊藤和幸様  
中埜章代様

名東福祉会合同家族会様

名東福祉会後援会様

河津光子様 斎藤文子様 富成英一様 山本明子様 岡部昭子様

## 名東福祉会のホームページ

ホームページアドレス <http://www.meito.or.jp>

#### ●社会福祉法人 名東福祉会

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納58-4  
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

#### ●メイトウ・ワークス

〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊2-1303  
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079

#### ●天白ワークス

〒468-0023 名古屋市天白区御前場町327  
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416

#### ●デイケア はまなす

〒465-0054 名古屋市名東区高針台1-911  
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552

#### ●レジデンス日進・ハートフルアクト日進

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納58-4  
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

#### ●天白ホーム

#### ●上ノ山ホーム

#### ●児童行動療育センター「たけのこの家」

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上の山14番3  
TEL 052-800-2203 FAX 052-880-2204

#### ●焼き菓子の店「ロト」

〒470-0124 日進市浅田町平池112-3  
TEL 052-808-6555 FAX 052-808-6555